

横須賀市立博物館所蔵故細谷角次郎氏蒐集
の貝類標本中のミックチキリオレ科
の各種の目録と解説

小 菅 貞 男*

On the Family Triphoridae of the Late Mr. Hosoya Shell Collection
deposited in Yokosuka City Museum

Sadao KOSUGE*

筆者は数年来邦産ミックチキリオレ科の分類について研究を進めてきたが、今回横須賀市博物館に所蔵されている故細谷氏蒐集品の内の同科の標本を調査する機会に恵まれたので、ここに各種の目録に解説を付して同館標本利用者の便宜をはかることとした。

種々御好意を示された同館々長羽根田弥太博士および堀越増興博士に感謝する。また種々御教示を給わった黒田徳米、滝巖、波部忠重、大山桂の各博士に深謝する。

属および亜属の区分

本科の貝殻は左巻、一般に微小で最大の種類でも約 3 cm 多くは 1 cm 未満である。普通海岸の砂浜などに打ち上げられることが多いので概形は広く知られている。しかしながら、その類別には胎殻、殻口や彫刻などの形態が重要な区別点となるので、これらが良く保存されていない打揚標本では類別はなかなか困難なところがある。

本科の属および亜属は次のように区分される。

後溝は閉じた管状になる.....Genus *Triphora*.

彫刻は 1 螺層に 2 顆粒列。

胎殻は尖錐形、多層.....Subgenus *Iniforis*.

胎殻は乳頭形.....Subgenus *Epiforis*.

1 螺層に 3 顆粒列.....Subgenus *Triphora* s. str.

後溝は深い切れ込みか浅い凹みとなる。

彫刻は全部または一部が平滑な螺肋。

胎殻は乳頭状.....Genus *Sychar*.

胎殻は尖錐形、多層.....Genus *Viriola*.

1 螺層に 2 または 3 本の螺肋でその間に縦糸を刻む.....Subgenus *Viriola* s. str.

2 螺肋とその中間に 1 顆粒列.....Subgenus *Orbitophora*.

3 螺肋で縦糸を刻まない.....Subgenus *Teretriphora*.

彫刻は横長の顆粒からなる。

殻は細く、長い.....Genus *Inella*.

殻は短かく、紡錘形.....Genus *Euthymella*.

彫刻は円形の顆粒からなる。

胎殻は尖錐形、多層。

* 国立科学博物館動物学課。

- 彫刻は 2 顆粒列.
 殻は腹太, 紡錘形.....Genus *Mastonia*.
 殻は細長く, 針状.....Genus *Liniphora*.
 彫刻は 3 顆粒列.....Genus *Notosinister*.
 彫刻は 4 顆粒列.....Genus *Tetraphora*.
 胎殻は幼層に埋没する.....Genus *Isotriphora*.
 胎殻は乳頭状.....Genus *Cautor*.

各種の目録および解説

Genus *Triphora* Blainville, 1828.

Subgenus *Triphora* s. str.

T. (T.) concors (Hinds) シロキリオレ (白錐折: Shiro-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshima: 3697), 産地不詳 (Loc. ?: 3698).

殻は正円錐形で大形, 約 12 mm. 白色, ときに 1 部分黒紫色となる. 顆粒は弱く縫合はくびれない. ときに縦肋の強く出る個体があり, これは *T. nodifera* (Adams & Reeve) に相当するが同一種と認められる. 貝雑 (Venus): **21** (3): pl. 19, f. 8 参照.

T. (T.) undata Kosuge エビイロミツクチキリオレ (蝦色三口錐折: Ebiro-mitsukuchi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshima: 3699), 産地不詳 (Loc. ?: 3700).

円錐形だが真中でわずかに膨れ, 体層の底部でつぼまる. 中形で約 6 mm. 葡萄色, 螺塔の上部で多少紫色に染まる, 胎殻は褐色. 顆粒は円く, 真中の 1 列は弱い. 科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): **6** (2): pl. 8, f. 1 参照.

Subgenus *Iniforis* Jousseume, 1884.

T. (I.) speciosa (Adams & Reeve) ベニオビミツクチキリオレ (紅帯三口錐折: Beniobi-mitsukuchi-kiriore).

産地不詳 (Loc. ?: 3701).

殻は細く, 多少体層以下がつぼまる. 7 mm. 乳白色の光沢ある地に赤褐色の帯を各層の下側の顆粒列上にめぐらす. 顆粒は大きく凸出する. 前溝の先端も赤褐色に染まり, 色彩で容易に他種と区別できる. 貝雑 (Venus): **21** (3): pl. 19, f. 1 参照.

T. (I.) poecila (Hervier, 1897) ムラクモミツクチキリオレ (叢雲三口錐折: Murakumo-mitsukuchi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshima: 3702), 産地不詳 (Loc. ?: 3703).

殻はやや太い円錐形, 螺塔の下部では漸次細まる. 約 7 mm. 顆粒は大きく白く, 薄茶色のむら雲模様の地に浮んで見える, 各顆粒は細い螺旋糸で結ばれる. 貝雑 (Venus): **21** (3): pl. 19 f. 6 参照.

T. (I.) lifuana (Hervier) コハクミツクチキリオレ (琥珀三口錐折: Kohaku-mitsukuchi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshima: 3704), 伊豆八丈島 (Hachijo I., Izu Is.: 3705), 産地不詳 (Loc. ?: 3706).

殻は極めて細長い円錐形で約 7 mm. 顆粒は大きく隆まる. 白色半透明で多少光沢をもつ. 後溝は後方に長く突出する. 貝雑 (Venus): **21** (3): pl. 19 f. 5 参照.

T. (I.) Jousseumei (Hervier) シラクモミツクチキリオレ (白癩三口錐折: Shirakumo-mitsukuchi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshima: 3707), 伊豆八丈島 (Hachijo I., Izu Is.: 3708), 産地不詳 (Loc. ?: 3709).

殻はやや小形, 円錐形で体層でつぼまる. 5 mm. 茶褐色または薄茶色, 螺塔の上部は白色, 胎殻は

褐色。顆粒は小さく密接する。貝雑 (Venus): **21** (3): pl. 19 f. 3 参照。

T. (I.) albogranosa Kosuge シラボシミックチキリオレ (白星三口錐折: Shiraboshi-mitsukuchi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3710), 産地不詳 (Loc. ? : 3711).

殻は中形で 7 mm, 円錐形で体層でわずかにつぼまる。顆粒は大きく栗色の地に白く浮ぶ。光沢はにぶく, 前種より大きく顆粒は淡色。貝雑 (Venus): **21** (3): pl. 19 f. 7 参照。

Genus *Viriola* Jousseau, 1884.

Subgenus *Viriola* s. str.

V. (V.) cancellata (Hinds) シボリマキキリオレ (絞巻錐折: Shiborimaki-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3712), 伊豆八丈島 (Hachijo Is., Izu: 3713), 産地不詳 (Loc. ? : 3714).

殻は中形で 9 mm. 円錐形, 下部で多少つぼまる。螺層の上下に太い平滑な螺肋をめぐらし, それらの中間に 1 細螺糸とこれに交叉する多数の縦糸をもつ。殻色は橙色に多少白斑をまじえ, 各層の縦糸間は赤褐色で染められる。貝雑 (Venus): **21** (4): pl. 22, f. 1 参照。

V. (V.) elongata (Laseron) var. サビキリオレ (錆錐折: Sabi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3715), 産地不詳 (Loc. ? : 3716).

殻はやや太い円筒形で約 8 mm. 螺塔の上部では円錐形。白色または薄紫色。平滑な 3 螺肋をめぐらし, 中間の 1 列は他より細い, 縦糸は弱く不明瞭。貝雑 (Venus): **21** (4): pl. 22, f. 9 参照。

V. (V.) connata (Montrouzier) トウマキキリオレ (籐巻錐折: Tōmaki-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3717), 土佐湾 (Tosa Bay: 3718), 産地不詳 (Loc. ? : 3719).

殻は正円錐形で大きく約 11 mm. 平滑なる螺肋は細く, 肋間は多少広い。縦糸の強さはいろいろに変化する。殻色は濃褐色で白斑をもち, 漂白されたものは茶色となる。貝雑 (Venus): **21** (4): pl. 12, f. 4 参照。

V. (V.) tricineta (Dunker) キリオレ (錐折: Kiriore).

相模湾 (Sagami Bay: 3720).

殻は細長い円錐形で 12 mm. ぐらい。茶色または濃褐色。螺層の上下に太い螺肋をめぐらし, その中間に細い 1 螺糸とこれに交叉する強い縦糸を刻む。前種よりも細く縦糸は規則的で強い。わが国の沿岸で最も普通に得られる種類である。貝雑 (Venus): **21** (4), pl. 22, f. 5 参照。

V. (Orbitophora) intergranosa (Hervier) フカボリキリオレ (深彫錐折: Fukabori-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3721), 産地不詳 (Loc. ? : 3722).

貝殻は小形で細い円錐形, 約 5 mm. 体層ではほとんど細まらない。螺層の上下に太い平滑な螺肋があり, 中間の 1 列は縦糸で分断されて顆粒状になる。茶色の地に白斑をまじえる。トウマキキリオレに似るが小形で中間列が顆粒となる。貝雑 (Venus): **21** (4): pl. 22, f. 7 参照。

V. (O.) kanamarui (Kuroda MS.) Oyama & Habe マダラキリオレ (斑錐折: Madara-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3723), 産地不詳 (Loc. ? : 3724).

殻は中形で 9 mm. 螺塔の上部では円錐状, 下部では円筒形, 体層では細まらない。各螺層の上部の 2 螺肋は細く, 肋間は広くはなれる。下部の 1 肋は太く顆粒列となり, さらに縫合の間に細い 1 螺糸をめぐらす。肋間は不規則に縦皺を刻み微細な螺条を多数めぐらす。殻色は茶色で不規則に白斑を散らす。貝雑 (Venus): **21** (2): pl. 22, f. 10 および波部: 続原色貝類図鑑 (改訂版: 1962) pl. 13, f. 16 (附 p. 43) に記載されている。

Genus *Inella* Bayle, 1878.*I. maxillaris* (Hinds) スミレハリオレ (莖針折: Sumire-hariore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3725).

細長い円筒形で上部で細まる。約 10 mm。各螺層は等大の 3 顆粒列、顆粒は互に密着し、一見平滑な螺肋状になる。各肋の両縁は顆粒の形なりに鋸歯状に刻まれる。胎殻は円頂の 2 層で白色、殻は莖色または濃茶色。貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 7, f. 2 参照。

I. asperrima (Hinds) ハリオレ (針折: Hariore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3726).

殻は極めて細長く針状、約 15 mm。白色透明。各層とも縫合でくびれる。顆粒は 3 列で上側の 1 列は小さく、各顆粒は三角錐状に鋭どく隆まる。針状に細いことと顆粒とで容易に区別できる。

貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 7, f. 4 参照。*I. pyramidalis* (Adams & Reeve) トガリキリオレ (尖錐折: Togari-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3727).

殻は極めて大きく正円錐形で 20 mm。顆粒は大きく縦に弱く結ばれる。殻色は薄茶色、茶色の不規則な斑点が広がる。本種はカスリキリオレに似るが、殻形の正円錐形なことと彫刻が顆粒列からなることとで区別できる。貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 7, f. 3 参照。

I. verrucosa (Adams & Reeve) アミメキリオレ (網目錐折: Amime-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3728).

殻は細く尖り、中形で 10 mm。赤橙色または薄茶色。胎殻は赤褐色で 4 層。顆粒は 3 列で下側の 2 列は大きく同じ大きさ、上の 1 列は小さい。顆粒は上下左右に強く結ばれ、縦肋と螺糸は格子目状となる。貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 7, f. 1 参照。

I. subfenestra Kosuge コウシキリオレ (格子錐折: Kōshi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3729).

殻は前種に似るが、より大きく太い。約 10 mm。紫または莖色、胎殻は茶色。顆粒も前種に似るが大きく互に密接する。顆粒間は強く縦肋と螺肋で結ばれて格子目状となる。貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 8, f. 12 参照。

I. granicostata Kosuge ツツレキリオレ (綴錐折: Tsuzure-kiriore).

産地不詳 (Loc. ? : 3730).

多少円筒または砲弾形、先端で細まる。約 8 mm。顆粒は 3 列で互に密着し螺肋状に多少見える、顆粒列間は深い溝となり細い縦糸を刻む。乳白色または黄白色で光沢がある。密着した顆粒列で容易に区別できる。貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 8, f. 11 参照。

I. japonica Kuroda & Kosuge アラレキリオレ (霰錐折: Arare-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3731), 相模 (Sagami: 3732).

殻は大形の円錐形で 12 mm。各螺層は縫合でくびれる。顆粒は 3 列で幅広の縦肋と螺糸で強く結ばれ格子目状となる。下側の顆粒列は他よりも大きく、縫合のくびれとあいまって概形屋根を重ねたごとくに見える。殻色は薄茶色に白斑を多数散らし、顆粒列は多少紫色。従来本種は *Triphora fusca* (Dunker) の名で知られていたものである。

Genus *Euthymella* Thiele, 1929.

E. isaotakii Kosuge タキツムガタキリオレ (滝¹⁾紡錘形錐折: Taki-tsumugata-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3733).

膨らんだ円錐形で体層でつぼまる。約 7 mm。顆粒 3 列、幅広の縦肋と細い顆糸で結ばれる。顆粒間は格子目状となり深く凹む。胎殻は茶色、螺塔の上部は白色、残りは麦葉色。幅広の顕著な縦肋と殻色は特徴的。貝雑 (Venus): 22 (2): pl. 8, f. 18 参照。

E. leucocephala Kosuge オキナツムガタキリオレ (翁紡錘形錐折: Okina-tsumugata-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3734).

殻形は前種に似る。胎殻は乳頭状で白色、残余は濃茶色。顆粒は 3 列、前種同様に縦肋と螺糸で結ばれるが前種ほど強くない。縫合は幅広の溝となる。本種の和名は故細谷翁の白髪と胎殻の白色とに因んで命名した。貝雑 (Venus): 22 (3): pl. 18, f. 5 参照。

Genus *Mastonia* Hinds, 1843.

M. rubra (Hinds) ムラサキハラプトキリオレ (紫腹太錐折: Murasaki-harabuto-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3735).

極めて膨らんだ紡錘形で先端で細まり尖る。比較的大形で 9 mm。顆粒は 2 列で円く隆まる。本種は殻形、彫刻と共に紫色の色彩で容易に他種と区別できる。本種に似て小さく、やや淡色で後溝が管状となるものは *Triphora fusiformis* Kosuge フジイロミツクチキリオレである。貝雑 (Venus): 22 (2): pl. 7, f. 10 参照。

M. monilifera (Hinds) ミケイロキリオレ (三毛色錐折: Mikeiro-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3736), 伊豆八丈島 (Hachijo Is., Izu: 3737), 産地不詳 (Loc. ?: 3738).

殻は小形で膨らんだ円錐形、体層でつぼまる。約 6 mm。2 顆粒列。色彩は橙色で多少白斑を混じえる。下側の顆粒列は顆粒間を赤茶色に彩どられる。体層ではこの赤茶色の顆粒列は 2 列になる。貝雑 (Venus): 22 (2): pl. 7, f. 7 参照。

M. crassula (v. Martens) ネズミキリオレ (鼠錐折: Nezumi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3739).

殻は小形で 5 mm。極めて膨れた紡錘形。顆粒は 2 列、体層では周縁下部に 1 顆粒列が加わり 3 列となる。各顆粒は円形で大きく螺糸で結ばれる。胎殻は多層で尖り、茶色、その他は灰色または薄ネズミ色。科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): 6 (2): pl. 9, f. 4 参照。

M. papillata (Hervier) シロイボキリオレ (白疣錐折: Shiro-ibo-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3740), 産地不詳 (Loc. ?: 3741).

膨らんだ紡錘形、中形で約 7 mm。顆粒は 2 列で大きく円く隆まり、白色で赤紫色の地に浮び上って見えるので容易に区別できる。貝雑 (Venus): 22 (2): pl. 7, f. 9 参照。

M. ustulata (Hervier) クビマキキリオレ (首巻錐折: Kubimaki-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3742), 産地不詳 (Loc. ?: 3743).

多少紡錘形で 6 mm。胎殻は多層で尖り茶褐色。顆粒は 2 列で下側の 1 列は白色、残りは橙赤色。顆粒は小さく円く隆まる。赤褐色の色帯で体層の 2 顆粒列と第 7 および第 8 層の下側の顆粒列とが染められる、特異な色帯で容易に他種と区別できる。貝雑 (Venus): 22 (2): pl. 7, f. 8 参照。

M. lamberti (Hervier) ミケイロハラプトキリオレ (三毛色腹太錐折: Mikeiro-harabuto-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3744).

殻は大形で膨らんだ紡錘形、螺塔の中央は膨れやや円筒状。約 9 mm。顆粒は 2 列で小さくあまり

1) 滝庸博士

隆まらない。顆粒列は互に広く離れる。下側の顆粒列は黄茶と白とで交互に染められ、残りは桃紫色。貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 7, f. 5 参照。

Mastonia squamosa Kosuge サメハダキリオレ (鮫膚錐折: Samehada-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3745), 産地不詳 (Loc. ? : 3746).

中形の紡錘形, やや細く先端で細まり, 8 mm. 胎殻は多層で尖り茶褐色。顆粒は2列で螺糸で結ばれる。各顆粒は大きく円く隆まり, 下側の顆粒はより大きく白色, 上側の1列は薄茶色, 体層では5顆粒列で各列とも縦にも結ばれて乳白色となる, 顆粒間は赤茶色。彫刻および色彩で区別できる。貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 8, f. 15 参照。

M. squalida Kosuge トクサキリオレ (木賊錐折: Tokusa-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3747), 産地不詳 (Loc. ? : 3748).

殻は前種に極めて類似する。胎殻も前種と同じ。顆粒は小さくあまり凸出しない。色彩は全体が乳白または薄色で稀に茶色斑を散在させる。彫刻および色彩で前種と区別できる。貝雑 (Venus): **22** (2): pl. 8, f. 19 参照。

Genus *Notosinister* Finlay, 1927.

N. tristomus (Blainville) var. テンスジキリオレ (点筋錐折: Tensuji-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3749), 産地不詳 (Loc. ? : 3750).

殻は円錐形で比較的大形。10 mm. 3顆粒列で真中の1列は他より小さい。顆粒は小さく密接し, 螺糸で結ばれる。殻色は黄茶で頂部は白色, 各層の下側の顆粒列は赤茶色の細い色帯をめぐらす。科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): **6** (2): pl. 9, f. 12 参照。

N. granulatus (Adams & Reeve) イワコワアラレキリオレ (岩川¹⁾霰錐折: Iwakawa-arare-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3751).

大形の膨れた紡錘形, 8 mm. 各層ともよく膨れ縫合でくびる。顆粒は3列で規則的に並ぶ, 各顆粒は比較的大きくやや方形に近い, 濃褐色で多くの場合上側の1列は白色または色が薄くなる。

N. alveolatus (Adams & Reeve) var. クロクリイロキリオレ (黒栗色錐折: Kuro-kuriro-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3752), 産地不詳 (Loc. ? : 3753).

前種に殻色, 彫刻は類似するが螺層は膨らまず螺塔は直円錐形。顆粒は大きく円形, 下側の1列は他より大きく多くの場合色が薄くなる。縫合は広い溝となる。殻長 12 mm. 科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): **6** (2): pl. 9, f. 2 参照。

N. cinguliferus (Pease) ソメワケキリオレ (染分錐折: Somewake-kiriore), ホソスジミツクチキリオレ (細筋三ロ錐折: Hososuzi-Mitsukuchi-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3754), 伊豆八丈島 (Hachijo Is., Izu: 3755), 産地不詳 (Loc. ? : 3756).

殻は小形で円錐形, 体層でつばまる。5 mm. 顆粒は小さくあまり隆まらない, 3列で真中の1列は他より細く螺塔の上部では螺糸状に細まる。下側の顆粒列は濃赤橙色帯に被われるが顆粒は淡色, 残りは白色または薄黄色。科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): **6** (2), pl. 9, f. 6, および波部: 続原色貝類図鑑改訂版 pl. 13, f. 17 参照。

N. lucidulus (Hervey) ロウイロキリオレ (蠟色錐折: Rôiro-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3757).

殻は小形の紡錘形で 6 mm. 胎殻は多層で尖り薄茶色。顆粒は3列で真中の1列は細く螺塔の上部では螺糸状に細まる。上下の顆粒は大きく, 幅広の縦肋と太い螺糸で結ばれる。殻色は薄色。

1) 岩川友太郎博士

Notosinister rutilans (Hervier) ホロヨイキリオレ (微酔錐折: Horoyoi-kiriore).

産地不詳 (Loc. ? : 3758).

細長の円錐形で 7 mm. 体層ではほとんどつぼまらない. 赤褐色. 顆粒は小さく密接し螺糸で結ばれる. 顆粒は 3 列で真中の 1 列は螺塔の上部でも細くならない.

N. monacha (Hervier) ビクニキリオレ (比丘尼錐折: Bikuni-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshshima: 3759), 産地不詳 (Loc. ? : 3760).

殻は中形で 7 mm. 円錐形で多少膨らみ体層でつぼまる. 顆粒は 3 列で真中の 1 列は他より細く, 各顆粒は縦長で互に密着する. 殻色は黄茶, 螺塔の上部で白色, 真中と下側の顆粒列間に赤褐色の細線をめぐらす.

N. thetis (Hedley) コゲチャキリオレ (焦茶錐折: Kogecha-kiriore).

産地不詳 (Loc. ? : 3761).

殻は細い錘子形で 6 mm. 体層でつぼまる. 顆粒は螺塔の上部では 2 列, 体層および次体層で 3 列になる. 中間の顆粒列は上部では螺糸状となる. 各顆粒は比較的大きく円形で隆まる. 殻色は赤橙で顆粒は白い. 科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): 6 (2): pl. 9. f. 11 参照.

N. multigyratus (Yokoyama) カズマキキリオレ (数巻錐折: Kazumaki-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshshima: 3762), 相模 (Sagami: 3763).

細長い円錐形, 約 13 mm. 顆粒は 3 列, 真中の 1 列は螺塔の上部でも弱まらない. 各顆粒は円形で平たい, 比較的大きく, 螺糸で結ばれ規則的に配列される. 殻色は白地にわずかに薄橙色斑を散らす, 螺層の多いことと規則的な顆粒列とで区別される. 科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): 6 (2): pl. 8, f. 12. 参照.

N. otsuensis (Yokoyama) ホソアラレキリオレ (細霰錐折: Hoso-arare-kiriore).

能登 (Noto: 3764).

殻の大きさは 7 mm. 細い円錐形で体層ではほとんどつぼまらない縫合は溝状となりかなり幅広い, 顆粒は円形で良く膨み 3 列, 各螺層は膨れず直線状, 殻色は薄橙色で縫合溝で多少濃くなる. 科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): 6 (2): pl. 10, f. 2 参照.

N. coralinus (Laseron) サンゴキリオレ (珊瑚錐折: Sango-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshshima: 3765).

棒状で細く小形で約 5 mm. 両端で細まる. 顆粒は 3 列, 真中の 1 列は細く螺塔の上部で弱まる. 殻色は白く, 方形または線状の褐色斑を多数散らす. 科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): 6 (2): pl. 10, f. 9. 参照.

N. hervieri Kosuge ヘリトリムラサキキリオレ (縁取紫錐折: Heritori-murasaki-kiriore).

奄美大島 (Amami-Oshshima: 3766), 産地不詳 (Loc. ? : 3767).

殻は比較的大形で 10 mm. 円錐形で体層ではほとんどつぼまらない. 顆粒は 3 列で真中の 1 列は螺塔の上部で弱くなる. 上側の 1 列は黄色で他は桃色. 各顆粒は規則的で大きい. 色彩で容易に他種と区別できる. 科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): 6 (2): pl. 10, f. 1 参照.

N. kawamurai Kosuge ホツヤカキリオレ (細やか錐折: Hosoyaka-kiriore).

伊豆八丈島 (Hachijo I., Izu Is.: 3768).

殻は小形で細く, 体層でつぼまる, 5 mm. 殻質は薄く半透明. 各顆粒は小さく密接し螺糸で結ばれ 3 列. 縫合は溝状でくびれる. 殻色は白, 各層の上側の顆粒列と縫合上螺糸は赤褐色帯で彩どられ, 体層では 2 色帯. 科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): 6 (2): pl. 10, f. 3 参照.

N. graphius Kosuge セキヒツキリオレ (石筆錐折: Sekishitsu-kiriore).

産地不詳 (Loc. ? : 3769).

殻は大形で 10 mm. 直円錐形, 体層でつぼまらない. 顆粒は極めて小さく, 互に広く離れ, 細い縦

糸と螺糸で結ばれ格子状となる。格子目は極めて弱い。殻色は黒褐色、螺塔の上部は白色。貝雑 (Venus): **22** (3): pl. 18, f. 6 参照。

Notosinister atratus Kosuge シロエリキリオレ (白襟錐折: Shiroeri-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3770).

殻は中形で膨らんだ紡錘形。約 6 mm。顆粒は 3 列で真中の 1 列は細く螺塔の上部に行くにしたがって弱くなる。各顆粒は小さく互に密接し、顆糸で弱く結ばれる。胎殻は多層で茶色、次の数層は白色、残りは黒茶色。科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): **6** (2): pl. 9, f. 5 参照。

N. millepunctatus Kosuge チャマダラキリオレ (茶斑錐折: Chamadara-kiriore).

産地不詳 (Loc. ? : 3771).

細長の浮子形、7 mm。体層でつぼまる。顆粒は 3 列で真中の 1 列は螺塔の上部で弱まり消滅する。各顆粒は円形で隆まり螺糸で結ばれる。胎殻は茶褐色、残りは薄茶色に茶色の小斑を多数散らす。科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): **6** (2): pl. 10, f. 4 参照。

N. rufotinctus Kosuge フチヌイキリオレ (縁縫錐折: Fuchinui-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3772).

小形の徳利状、体層で膨れ底部でつぼまる。胎殻は多層で尖り茶色他は黄金色。下側の顆粒列間の下側は赤茶色にそまる。色彩で他種と区別できる。貝雑 (Venus): **22** (3): pl. 16, f. 26 参照。

N. testaceus Kosuge レンガマキキリオレ (煉瓦巻錐折: Rengamaki-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3773), 産地不詳 (Loc. ? : 3774).

中形の徳利状、前種に似るがより大きく、殻は黒茶色。顆粒は低く不明瞭で互に密接する。エビイロミツクチキリオレとは後溝の形と殻色で、ビクニキリオレとは殻形が砲弾形とならないことで区別できる。貝雑 (Venus): **22** (3): pl. 16, f. 21 参照。

N. iwaotakii Kosuge スミレフクレキリオレ (菫膨錐折: Sumire-fukure-kiriore).

奄美大島 (Amami-Ohshima: 3775).

殻は小形で良く膨む。顆粒は 3 列で大きく、上側の 1 列は白色に近く、他は薄紫色。ロウイロキリオレとは紡錘形にならないことと胎殻とで異なる。貝雑 (Venus): **22** (3): pl. 16, f. 27 参照。

Genus *Isotriphora* Cotton & Godfrey, 1931.

Is. kurodai Kosuge コンボウキリオレ (棍棒錐折: Konbô-kiriore).

奄美大島 (Amami Ohshima: 3776), 土佐 (Tosa: 3777), 能登 (Noto: 3778), 相模 (Sagami: 3779), 産地不詳 (Loc. ? : 3780).

殻は長円錐または棍棒状。淡褐色または茶褐色。顆粒は 3 列で規則的に並ぶ。縫合は多少くびれて溝状となる。胎殻は螺塔の頂部に埋れてドーム状の平滑な頂部がわずかに見える。螺塔はすべて同一の顆粒 3 列の彫刻。胎殻の特異な点で他種と区別できる。殻長 7 mm。貝雑 (VENUS): **22** (3): pl. 16, f. 7 および科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): **6** (2): pl. 10, f. 7 参照。

Genus *Cautor* Finlay, 1927.

C. marceda (Laseron) ナンカイキリオレ (南海錐折: Nankai-kiriore).

奄美大島 (Amami Ohshima: 3781).

殻の概形は前種に似るがやや太く、体層でつぼまる。顆粒は比較的大きく円形でよく膨らむ。各螺層は多少膨らみ顆粒 3 列をめぐる。縫合は溝状だが狭い。殻色は桃色または赤桃色、体層の底部は橙色。胎殻は 1 層半ぐらいでドーム状。殻長 7 mm。貝雑 (Venus): **22** (3): pl. 17, f. 38 参照。

Cautor maculosus memichaeli Kosuge チャガスリキリオレ (茶紺錐折: Chagasuri-kiriore).

奄美大島 (Amami Ohshima: 3782), 相模 (Sagami: 3783), 産地不詳 (Loc. ?: 3784).

殻は前種に似るがさらに膨れる。胎殻はドーム状または乳頭状で2層, 平滑で白色。顆粒は比較的大きく円形で良く凸出し, 螺糸と縦肋で結ばれる。各螺層に3顆粒列, 各列は互に多少離れる。殻色は白と黒褐色のカスリ模様となる。科博報 (Bull. Nat. Sci. Mus.): **6** (2): pl.10, f. 8参照。

C. cybaeus Kosuge トックリキリオレ (徳利錐折: Tokkuri-kiriore).

産地不詳 (Loc. ?:3785).

小形で良く膨れた徳利形。胎殻は乳頭, 白色で2層。他はオレンジ色で, 螺塔の上部の1層と体層に赤茶の色帯をめぐらす。貝雑 (Venus): **22** (3): pl. 17, f. 37 参照。

C. puniceus Kosuge アズキイロキリオレ (小豆色錐折: Azuki-iro-kiriore).

奄美大島 (Amami Ohshima: 3786).

小形で円筒形。胎殻は乳頭, 白色で2層, 幼層も白色, 他は赤紫色。コムラサキキリオレに似るが胎殻および色彩で異なる。貝雑 (Venus): **22** (3): pl. 17, f. 35 参照。

Résumé

The late Mr. Kakujiro Hosoya was one of the famous shell collector of Japan and his large collection was deposited in Yokosuka City Museum after his death. The author had an opportunity to study on the family Triphoridae in his collection through the courtesy of Dr. Yata Haneda, Director of Yokosuka City Museum and Dr. Masuoki Horikoshi, and in this paper 53 hitherto known species are listed. Brief remarks are given to each species with references to literature.